

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

| | |
|---------------|---|
| 事業名 | 軽井沢国有林藪刈り倒木粉碎チップ化事業 |
| 事業主体 (連絡先) | 軽井沢国有林藪刈り実行委員会 事務局長 打越綾子 (090-4127-9179, ZXE07046@nifty.com) |
| 事業区分 | (5) 環境保全、景観形成に関する事業 |
| 事業タイプ | ソフト事業 |
| 総事業費 | 570,853 円 (うち支援金: 456,000 円) |

事業内容

地域住民や子どもたちの通学・散策上、藪が道路まで迫っている場所は野生動物の潜み場所になりやすく危険である。そこで、軽井沢西地区の国有林では、野生動物対策の緩衝帯整備のための「藪刈り行事」を12年継続してきた。ただし、過去の台風で倒れた倒木は玉切りして積み上げておくことしかできなかった。

今回の事業では、藪刈りエリア西側の林縁部に一列に並べて積み上げておいた倒木を粉碎するために、チップー機械を投入した。さらに、粉碎したチップを地面に均一に広く撒布して林床を覆い、来年度以降の下草が生えてくるのも抑制することを目指した。整備面積は幅10メートル×長さ300メートル程である。



【チップ撒布後の見通しの良さ】

【目標・ねらい】

- ①林縁部の見通しの良さの確保
- ②チップ撒布による下草の抑制
- ③多様な関係者の協働による森林整備

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①見通しの良さの確保
従来、手作業で整備しても見通しの悪かった場所が、格段に見通しが良くなった。
- ②下草の抑制
来年度の下草発生を抑制できるだけのチップ撒布ができた(平成31年度春以降の作業を省略できる)
- ③多様な関係者の協働による森林整備
チップ化と撒布は機械が行ったが、事前準備も含めて多様な人々の協働の場となった(今年度の藪刈り行事全体への参加者は120人)。

※自己評価【A】

【理由】
積み上がっていたままの倒木が全面的に粉碎され、かつてない程の見通しの良さが実現できた。近隣住民・通学路を歩く子どもたちの安全に大きく貢献した。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

藪刈り行事は、開始してから12年継続している。官と民、都市と農村、専門家と一般住民、世代を超えた協働と交流をしながら森林整備を行っており、住民の間では軽井沢町の森林整備の象徴として位置づけられている。今年度の軽井沢町森林整備計画においても模範事例として明記されることとなり、平成30年度林野庁国有林野事業業務研究発表会にて長官賞を受賞した。

今後とも活動を継続し、町内及び長野県内の森林整備の模範たる地位を保ち続けていきたい。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。
「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた
「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある